

軽音楽クラブ部史(4)

BSSO創世紀 昭和38年卒 / BSSO 中田 健

私が高校時代からバンド仲間として可愛がっていたいたい現業友会

会長の島田先輩(Sax)、安藤先輩(Drums)、橋垣先輩(Bass)、3氏とも昭和35年卒、橋垣先輩は残念ですが既に鬼籍に入られましたので

縁で、当時からバンドとして演奏活動をしていた「メランゴリー・キヤツ」

に入ったのが昭和33年(1958年)の秋、まだ明治大学入学以前でした。もちろん入学は内定はしていましたが、当時はおおらかなもので、昭和33年大学祭にはメランゴリー・キヤツ・カルテットの員としてチャッカリ駿河台講堂の舞台に出ていたのが

記憶に鮮やかに残っています。

5月15日発行

NEVER ANOTHER YOUに乗つて演奏が開始されました。伝統二言で解決するのは簡単ですが、40年近く経つてもこのテーマが現役のバンドに受け継がれていることは感嘆ひとしおです。但し現役メランゴ

リーキヤツが先細りの感がして残念ですが……

昭和34年当時、島田先輩のホール、デスマンドぱりの奏法に影響を受け、デイブ・ブルーベックに興味を持った

この頃、御茶ノ水駅近くの路地奥にジヌス喫茶店(たぶん「ココボート」)

アート・フレーキー&ジャズ・マッセン・ジャズのレコードが頻繁にかけられていましたが有りましたので、よく出入りをしていました。ブルーベック、クリフオード・ブラウン等々、学業をサポートではコンテンポラリー・ジャズに没づいたものです。

当時は学生バンドの人気が高く、先輩に連れられてのダンス・パーティ等への演奏活動も充実していました。本来大学の学生課は、学生が明治大学の名前を出して資金を稼ぐことに敵しかったのですが、貧乏学生だった小生には、先輩から渡されるギヤラは青春の過程の資金としてソブリ無くなるのが常でした。良いことも、悪いことも、良き先輩からの指導を受けた時期です。

昭和35年の後半だったと記憶していますが、軽音楽俱乐部を作ることになり、諸先輩の尽力で、仏文の講師であられた小川先生を担当部長に、マンドリンクラブと応援団の真中に部室を構えることになりました。

当時は、ハイアン・バンド、ウエスタン・バンド、メランゴリー・キヤツ、デキントン・バンドと左右混合でしたから、部を纏めて行くことも大変だったううと思います。

5月15日発行

NEVER ANOTHER YOUに乗つて演奏が開始されました。伝統二言で解決するのは簡単ですが、40年近く経つてもこのテーマが現役のバンドに受け継がれていることは感嘆ひとしおです。但し現役メランゴ

リーキヤツが先細りの感がして残念ですが……

昭和34年当時、島田先輩のホール、デスマンドぱりの奏法に影響を受け、デイブ・ブルーベックに興味を持った

この頃、御茶ノ水駅近くの路地奥にジヌス喫茶店(たぶん「ココボート」)

あるタンスホール(今は有りませんが)にてピラグ・バンドのピアノ弾きとして在籍していましたが、何かの事情でギヤラが支払ってもらえず、仕方なくビッグバンドの譜面を多数もらう事

になりました。もちろんダンスバンドですから、マーシャル物、ルバ・マンボ、2ビートの譜面が多く、僅かにカウントペイシー、スタン・ケントンの譜面が混じておりました。この事が明

治大学のフルバンドを作る切っ掛けになつた因とも申せます。

主にラジオ局がハック・ア・フッシュ、大学バンド戦と称して、各大学のビッグ・バンドが放送されたのです。その頃でした。

何しろアマチュア・バンドですから、特に管樂器の吹き込みが足らず、難しいスタン・ケントンの演奏などは10分もしない内に各バー、セクションの皆でアルバイトした資金の寄せ集め

でやつの事で、ビッグバンドの原型が出来た次第です。その間、部内個人持ち、部費の補助、個人資金、ボパンのメンバーを中心に入れ、希望者の学生の中から、吹奏楽をやっていた等のある程度の音楽的経験を有したものを選抜し、一応の体裁を整える事が出来たの葉、昭和36年の夏でした。

演奏できるものも、ラテン物、ポップス物が多く、所謂ジャズ物はアーンサンブルは取れど、パートソロに満足できるものが無く、僅かなサミー・ネス

ティ・コ・ペイシーバンド、ベニーノ・グッドマンバンド、S・ケントンバンドの曲(フロバートが書き譜になつて)が有つた程度でした。

苦学生たる小生は、高校時代からプロのバンドに入り込みアルバイトを重ねていました。昭和34年当時、

エディーの専属司会者として多くの演奏会で活躍をしました。

当時の大学では、早稲田大学のハソンサエディー、慶應大学のライトミージック、KMPの2バンドが全盛で、中央大学のユニー・クリスクルもなかなかのものでした。法政大学の「ユース・オレンジ・オーケストラ」が出来たのもこの時期だと記憶しております。

主にラジオ局がハック・ア・フッシュ、大学バンド戦と称して、各大学のビッグ・バンドが放送されたのです。その頃でした。

何しろアマチュア・バンドですから、特に管樂器の吹き込みが足らず、難しいスタン・ケントンの演奏などは10分もしない内に各バー、セクションの皆でアルバイトした資金の寄せ集め

でやつの事で、ビッグバンドの原型が出来た次第です。その間、部内個人持ち、部費の補助、個人資金、ボパンのメンバーを中心に入れ、希望者の学生の中から、吹奏楽をやつ

ていた等のある程度の音楽的経験を有したものを選抜し、一応の体裁を整える事が出来たの葉、昭和36年の夏でした。

演奏できるものも、ラテン物、ポップス物が多く、所謂ジャズ物はアーンサン

ブルは取れど、パートソロに満足できることはあります。しかし、音楽専門学校へでも来てしまつたかの様に、音楽器の練習が響いておりますが、マンドリンクラブ程名が売れていないかった当時は、学業を妨害する騒音の一種と見做されており、やたらに音

バンドが出来ても、名無しの権利ではないとのことで、当時、マネージャー連中の練習場所探しは、大変な苦労があったものと想像されます。相談し、種々名前は出ましたが、大きいことは良いことと言うことで、芹沢君の発案「ビッグ・サウンズ・ザ・エディー」の名前を付けたわけです。その後芹沢君はピア・サウンズ・ザ・エディーの専属司会者として多くの演奏会で活躍をしました。

当時の大学では、早稲田大学のハソンサエディー、慶應大学のライトミージック、KMPの2バンドが全盛で、中央大学のユニー・クリスクルもなかなかのものでした。法政大学の「ユース・オレンジ・オーケストラ」が出来たのもこの時期だと記憶しております。

主にラジオ局がハック・ア・フッシュ、大学バンド戦と称して、各大学のビッグ・バンドが放送されたのです。その頃でした。

何しろアマチュア・バンドですから、特に管樂器の吹き込みが足らず、難しいスタン・ケントンの演奏などは10分もしない内に各バー、セクションの皆でアルバイトした資金の寄せ集め

でやつの事で、ビッグバンドの原型が出来た次第です。その後、上原君(昭和39年卒)、川名君(昭和38年卒、Drums)、前田君(昭和38年卒、Sax)等にもメンバーとして、手伝つてありました。その後、上原君(昭和39年卒)、「D」等は、BSSOのメンバーでもつて、コンボバンド「アキシーパンド」でもリーダー的存在になつっていました。その後、上原君(昭和39年卒)、「D」等は、BSSOのメンバーでもつて、コンボバンド「アキシーパンド」でもリーダー的存続になつっていました。その後、上原君(昭和39年卒)、「D」等は、BSSOのメンバーでもつて、コンボバンド「アキシーパンド」でもリーダー的存続になつっていました。その後、上原君(昭和39年卒)、「D」等は、BSSOのメンバーでもつて、コンボバンド「アキシーパンド」でもリーダー的存続になつっていました。その後、上原君(昭和39年卒)、「D」等は、BSSOのメンバーでもつて、コンボバンド「アキシーパンド」でもリーダー的存続になつっていました。その後、上原君(昭和39年卒)、「D」等は、BSSOのメンバーでもつて、コンボバンド「アキシーパンド」でもリーダー的存続になつていました。

大学学生課からは西二注意を受け、小川先生にも何度も迷惑を掛けられ、先輩、関係者の理解の中でコソリと各地のバーで演奏し、限られた報酬から、バーレン・サックスを購入、譜面台を新規作成し、メンバーのアルト・サックス藤枝君(昭和39年卒)のフレーズで大幅値切りで、ブルのユニフォームを新調したのも、この時期だったのです。これは、当時の会計担当部長清谷君(昭和38年卒)の尽力があつてのことでした。

当時の演奏は限られた譜面の中からでしたので、前述の通りの僅かなペイント、エリントン、ケントンのものを中心で、後は小生のブレンジによるシャコマ(ボンス)ものが主流でした。実験的に9th b-5、13thコードを多用

軽音楽クラブ部史(4)



GAKUYU

した難解なアレンジをしてメンバーを煙に巻いていた楽しい思い出も鮮やかに残っております。

アレンジと言えば、後輩の斎藤君(昭和40年卒)が思い出されます。元来トロントボーン担当でしたが、当時なかなかのアレンジをしていたと記憶しております。久しぶりに逢うことが出来ましたが、現在OBバンドの世話をしているとの事で、大変喜ばしい事です。

昭和37年は、学園祭、六大学演奏会、各種催物出演とそれなりに充実していた時期でした。中でも地方巡業での六大学演奏会、16人編成のメンバーに10人の部員を連れ30人近く疲れ者が、多くの樂器譜面備品を持つての夜行列車の旅ですか、当時のマネージャー斎沢君もやりきれない思いをいたるものと思います。

当時は、今と違つて学生間でもダンスパーティーが盛んに行われておりました。ロックの類ではなく、正統派のOBバンドのメンバーの中にはプロの

グンス・ハーティーだった様です。

ビッグバンドから引き抜いたコンボを連れての少女たちが収容されている施設の慰問演奏。多感な時期に逢つた世話をしてくれた日のきれいな少女。何でこんな施設に入っているのかと率直に感じた青春のページも有りました。

演奏会帰路、静岡県山比町の山岸さん(昭和39年卒)のお寺で厄介になつた事もありました。夏季休みには、南房総での地元の学校の教室を練習所にしての合宿、埼玉県の中学校での演奏会、校歌の伴奏をフルバンドでの要望に10分でパート譜を作成、5分の音合わせで何か凌いだ思い出等、きりが無いほどです。

バンドで活躍している後輩も何人かいらっしゃるとの事で、10年ひと昔とは言うものの、大きな進歩を感じると同時に、自分の息子、娘の年代のメンバーの演奏に感動もひとしおのものがありました。

年代と共に音楽の指向性が変わつておますが、学生バンドの良いところは、何年経っても1930年代~1960年の所謂クラシックジャズを演奏しているところだと思います。どこの大学バンドでも、ベイシー、エリントンの旧メンバーは、今まで盛んに演奏されている様です。ダンスくらいしかエンターテインメントの無い時代に発展したビッグバンドダンス音楽は、何でも有り、何でも遊べる今の時代に於いてはマイナーになりましたが、皆と一緒になつて合奏した喜びは、今でも忘れる事の無い青春のページなのです。



Le Gérant

有限会社 ジェラン

代表取締役 梁川 仁 (S46年卒/BS)

〒151 東京都渋谷区幡ヶ谷2-37-5 LC幡ヶ谷壱番館407
TEL.03-5350-3360 FAX.03-5350-8574

印章・ゴム印・名刺・印刷

印子屋98

代表 永山祐輔

(46年卒/BSSO)

〒111 東京都台東区蔵前1-8-3 オガワビル1F
TEL.03-3864-0315 FAX.03-3864-0302

(有)上原商店

代表取締役

上原孝夫

(63年卒/DX-BS)

東京都新宿区百人町2-21-3 TEL.03-3361-2055